

クローズアップ インタビュー



瑞宝単光章受章者 **川合重夫氏** (86歳)

受章の感想

永年警察に務め、危険な業務に従事したということ、今回受章させていただきました。大変光栄に思っております。仕事が多忙で大事な時に家を空けることが多く、家族には、大変苦勞や心配をかけた。支えてくれた家族や友人には大変感謝しております。

主な経歴

昭和23年～昭和32年 高浜町警察署 碧海地区警察署勤務
昭和33年～昭和37年 県警察本部警備部警備課主任
昭和42年～昭和43年 半田警察署防犯課長
昭和43年～昭和48年 県警察本部防犯部少年課課長補佐
昭和50年～昭和53年 蟹江警察署次長
昭和53年12月 定年退職

平成二十一年春の褒章の発表があり、川合重夫さん（青木町在住）が永年にわたり警察に勤め、防犯や健全な青少年育成に貢献し、受章されました。喜びなどをお聞きましたのでご紹介します。

警察本部長から「戦後の難しい時期を乗り越えて頑張っていた。いた。」と感謝の言葉をいただきました。

きっかけ

警察官になる以前は、郵便局に勤めていましたが、海軍に動員され通信隊でオペレーターをしていました。復員後は戦後の混乱で、若者がなかなか仕事に就けない状況でした。私も生きていくために一生懸命仕事を探しました。あるとき駐在所から警察官の受験を勧められ受験したことが、私の警察官になるきっかけとなりました。

苦勞

就職したころは、労働争議から事件が多発し、大阪へ応援に行くこともありました。また、伊勢湾台風が襲来し、家族を心配しながらも仕事に徹しました。

長い期間にわたり防犯関係の仕事に従事していました。事件を未然に防ぐためにも私は、地域のみなさんの防犯意識を高めることが重要であると考え、チラシを配るだけではなく、地域に自ら出向き自主防犯について住民の方と何度も話し合いました。

喜び

県警の少年課には、愛知県の重要な事件が集約されます。その処理は、大人の犯罪と違い難しいところがありました。いろいろな法律を勉強し、少女少女を暴力団などから守ることに苦勞しました。

当時は事件の情報を早く入手し、早期解決を図ることに全力を尽しました。特に少女少女には、早く更生して真っ当な人生を歩んで欲しいと強く願いました。そんなある日、勤務先に以前に事件を起こしてしまった少年が「おまわりさん、ありがとうございました。今は家庭を持ち幸せに暮らしています。」と言いに来てくれたことがありました。再犯を繰り返してしまふ少年が多いなか、本当に良かったと思えました。

若い人へ

罪を犯してしまうと、人生に大変重いハンディを背負うことになります。安定した生活を送るためにも、ぜひ定職に就いてください。また、相手の言うことをしっかりと聞いた後に、自分の意見を述べることも大切だと私は思います。